

# 防潮堤整備の概要

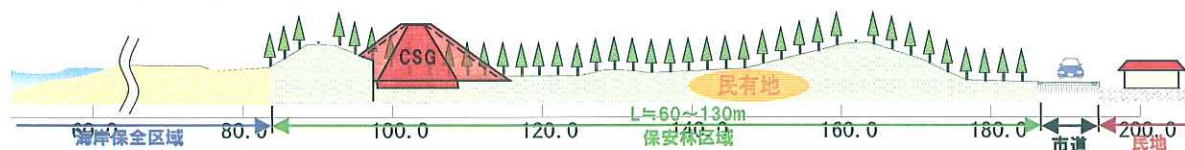
【凡例】

- ルート案
- ルート検討中
- 工用道路工・本体試験施工

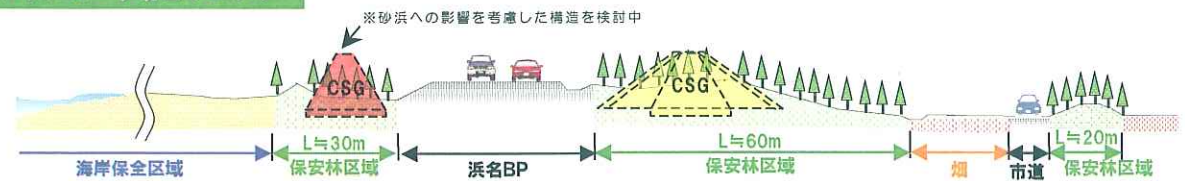


## 横断イメージ図

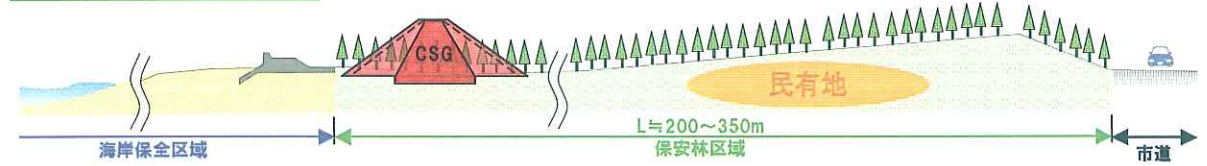
(3) 鳳上げ会場～浜名バイパスブロック



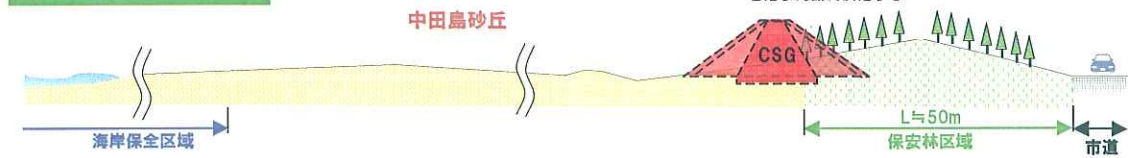
(4) 浜名バイパス～今切ロブロック



(1) 天竜川～馬込川ブロック



(2) 中田島砂丘ブロック



# 防潮堤の構造について

- 早期着工 & 早期完了を目指し、官地内ルートを基本とする
- 南海トラフ巨大地震の想定や、安政東海地震等をモデルにしたシミュレーションにより、防潮堤の規模や構造を検討する
- 貴重な動植物 (アカウミガメ) や侵食が進む砂浜の保全、景観や利用面に配慮し、保安林の嵩上げを基本とする
- 津波だけでなく、波浪や高潮に対する安全性を確保するとともに防潮堤に樹木を植栽し、保安林機能の維持向上を図る

	一般的な海岸堤防 (傾斜式)	CSG堤※
基本断面	<p>コンクリート被覆 土壌</p>	<p>CSG 土</p>
構造の考え方	・盛土表面をコンクリートで被覆し、津波による盛土の欠壊を防止する	・土砂とセメントを混合した CSG 堤により、津波波力等に対して安定な断面を確保する
評価	・保安林の再生ができないため、環境、景観面でマイナスとなる ・防風林の代替として防風・飛砂対策が必要となる	・抵抗性マツ等で保安林を再生することで、保安林機能の維持向上を図るとともに、景観、環境面への影響を最低限に抑えることが可能

※CSG堤は、ダムとして近年実績が多く、東日本大震災における海岸堤防の復旧工法に採用されている。

## 防潮堤の構造イメージ図

